

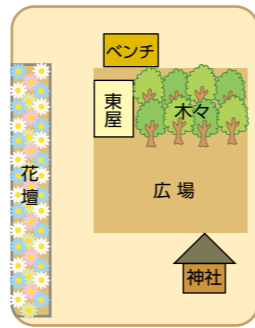


手作りのベンチと市街地を一望できる景色が、ぜいたくな時間を演出してくれます。

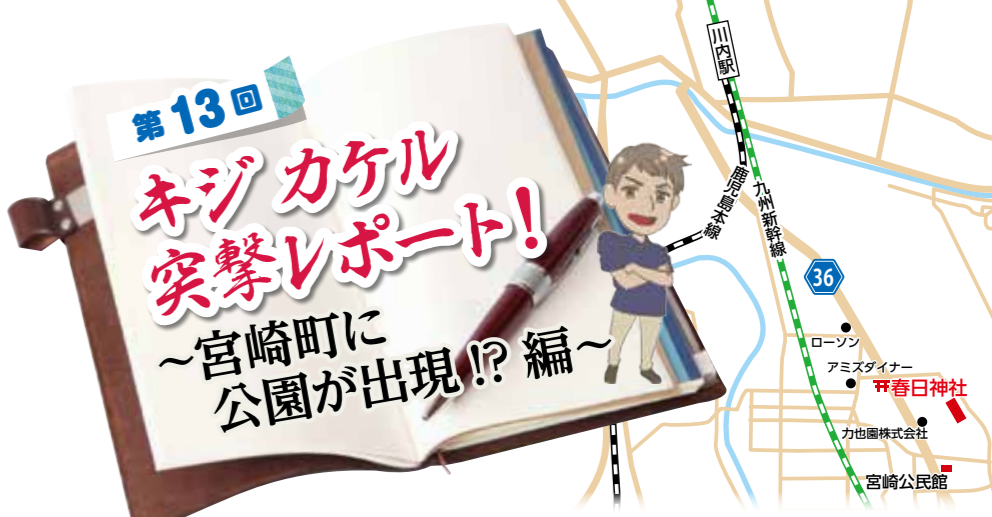
## キジカケル!



宮崎町で、地元の方がほとんど一人で山を切り開いて公園を作っちゃったって話が飛び込んできました。公園って個人レベルで作れるものなの!? 広さは? これはぜひ行ってみたいと。



足を踏み入れると、遊具施設などはなく、公園というよりは、広場という方がしっくりくる趣きで、東屋やベンチ、植栽された木などが見えます。



## 春日神社の春日の杜広場

その場所は、「春日神社に行けば分かる」という言葉を頼りに、宮崎町の高台にある春日神社を訪れると、その隣に広がる巨大な空間を発見しました。



散策すると「春日の杜広場」と掲げられた看板のそばで作業をしている人を発見しました。もしかしたら、うわさの「ほとんど一人で作っちゃった人」? ちょっと聞いてみます。



作業をされていたのは、神社総代の藤田三保さん。ほとんど毎日、朝の涼しい時間に来て作業をされているとのこと。うわさの人です。さっそく取材開始です。

### きっかけ

春日神社は昔から地元の人に愛されている神社。老朽化もあって2年前に約500万円をかけて拝殿を改築したのを

余った材木でベンチを作ると、コミュニティ協議会が同じく材木で作ったテーブルを設置してくれました。さらに、地元の林業会社は「ベンチやテーブルに使うほしい」と、余った材木を提供してくれました。

### 動き出した地域

市の花いっぱい運動の補助金を活用して、花壇を整備すると「花壇に使って」と庭の花を提供してくれる方や家から花を持ってきて植えてくれる方も現れました。作業を進めていくうちに、手伝ってくれる自治会の有志も自然と集まってきてくれるようになりまし。

藤田さんの思いと行動が歯車となって、ついに地域が動き始めたのです。



川東会長は、「広場の名前も自治会で公募して100通からの応募で選考も行い、「春日の杜広場」と決めた。ここで、バーベキューやそうめん流しをするのもいい。子どもたちも楽しめるように地域のみんなで考えていろんなことをここでやりたい」と話します。

きっかけに、神社のあるこの山もなんとかできないかってみんなで考える機会になりました。

そんな時、自治会で開催した宮崎フェスタで出された古い一枚の写真にみんなの目が止まりました。

それは、拝殿から、今となっては木が覆い茂って見えなくなってしまう県道を写した写真でした。「昔は、ここから県道が見えたんだ...」その声を聞いた藤田さんは、一念発起。ある思いが湧き起こりました。

### 取り戻したい風景

山が自治会の所有になったことも幸いして、藤田さんはある日、自治会長にこう相談しました。

「ここを整備して、県道と花火が見えるようにしたい!」宮崎自治会の川東憲次郎会長は、快く賛同し、自治会の総会でも取り上げ、みんなの同意を取り付けてくれました。

こうして、失われた風景を取り戻すべく、藤田さんは、昨年の3月26日から、全て手作業で、住民が集える憩いの場を作り始めたのです。



残念ながら今年には中止となってしまった川内川花火大会ですが、昨年は、市街地が一望できる高台であることを利用して、自治会から住民に呼び掛け、ここに想像を上回る80人が集まりました。

### その先に見えるもの

「大きくなったら、子どもたちがカブトムシを捕りに来れるように」とクヌギの木も植栽しました。

「完成度は90パーセント」と語りながらも「ここでジャンプしたら市街地の上で、跳んでるように見えるインスタ映えするスポットも作りたい!」



▲川東会長(左)と藤田さん(右)の2人のどちらかが欠けても、この景色は生まれなかったことでしょう。



と藤田さんは意気込みます。

散歩をされる近所の方や子ども連れで遊びに来る方もちらほら見られるようになりました。少しずつですが、着実に藤田さんと地域みんなの思いは、実を結び始めてきていました。



今和の新名所 春日の杜広場へようこそ!!

